

「放射能と私、医師として釣り師として」～原爆から原発へ～

講師：水戸部 秀利さん（医師）

日時：2014年4月19日（土）18時30分～21時30分

場所：仙台市民会館第一会議室

（〒980-0823 仙台市青葉区桜ヶ岡公園 4-1）

カンパ：300円 主催：みやぎ脱原発・風の会

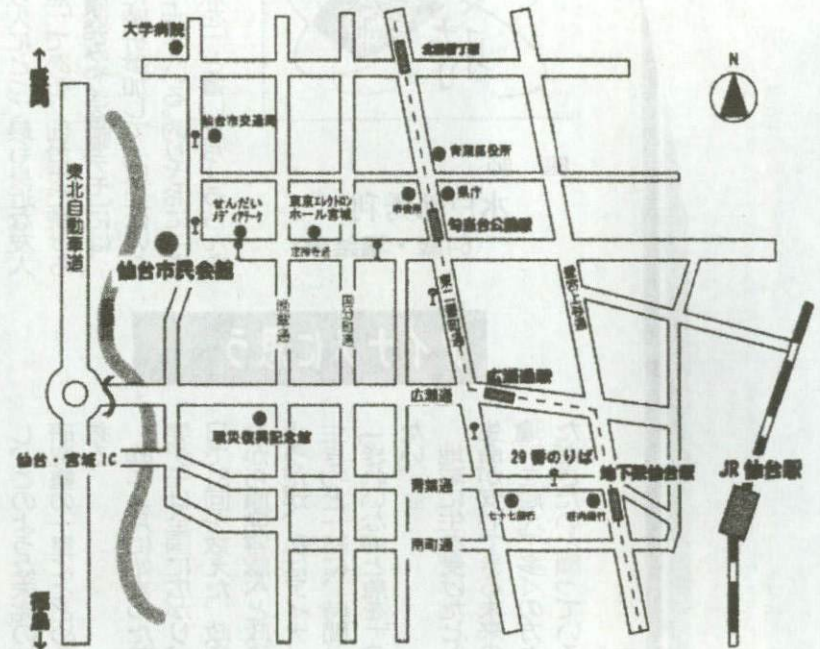
（お問合せ 090-8819-9920 館脇）

今回の講師は、みやぎ金曜デモでいつも提灯をさげて参加されている医師の水戸部さんです。宮城在来の広島・長崎被爆者の外来・検診を長年やってこられた経験と、釣り師としての海の生物への思いを語っていただきます。

—水戸部さんより「放射線医学の専門ではないので、学習というよりは交流会として、みなさんとお話できればと思っています」

（講師プロフィール）

●1948年 山形県最上郡生まれ ●1973年 東北大学医学部卒業 ●1990年 子どもと一緒に海釣りきっかけに釣り師の道へ
●1996年 長町病院院長 宮城在住の広島・長崎被爆者の外来・検診を、歴代院長から引き継ぐ ●2006年 厚生協会理事長
現在に至る ★2011年3月11日～原発事故契機に、被曝問題にも関わる。（釣り師は棚上げ状態となり、海洋汚染の怒りを釣り竿と提灯に表現し、みやぎ金曜デモに参加）



2月28日、福島第一原発の専用港湾内で捕獲されたアイナメから1発当たり51万円の放射性セシウムが検出され、さらに3月15日には74万円のアイナメが捕獲されたと報道された。

海の魚には立ち入り禁止区域も計画的避難区域もガイガーカウンターもない。東京電力は港湾の出口に刺し網を設置し、捕獲したアイナメを「駆除」するという。網で大きな魚は通れなくなるかもしれないが、小魚の移動や海水の流れを制限するのに効果があるだろうか。

原発事故による海洋汚染は、潮流と食物連鎖でコウナゴ、スズキ、クロダイ、ヒラメ、マダラなどに広がり、福島県沖にとどまらず広く太平洋沿岸に及んでいる。漁業を生業としている人々を苦しめ、復旧・復興の大きな妨げになっている。原発施設の汚染水貯蔵タンク建設も限界に近づいており、最後は海洋投棄という話も聞こえる。たとえ投棄しなくても、これまでに汚染された地下水の多くが海に流出している。陸上の除染作業を行っても、放射性物質の多くは風雨とともに川から海へ拡散していく。

私は医療を職業としているが、このような釣りを愛する一人でもある。アイナメは沿岸の釣り人にとって最も身近な友人ならぬ「友魚」である。仙台市で続けられている「脱原発みやぎ金曜デモ」には、職場の帰りに時折参加して「原発はいらない」と声を上げている。釣りにおに「きれいな海と魚を」と書いたちょうちんを



医師
水戸部秀利
(64歳・塩釜市)

放射能拡散 海にわびる

アイナメに思う

下げて、何の罪もない太平洋の魚たちの声なき声を陸の人々に届けている。人も魚もこの地球上に生きる動物は、感覚器を進化させ、熱い、痛い、臭い、苦いなど生きることによる有害な外界の事象を感じて逃避する能力を備えている。だからこそ無事に生きていられる。

考えてみれば、約46億年前に誕生した原始地球では、宇宙から放射線が降り注いでいた。地殻や大気、地磁気、海洋の形成によって強力な自然放射線から保護される環境ができたことで、ようやく生命の進化が始まったのである。

そうした環境下で、長い時間をかけて進化を遂げてきた私たちには、放射能を感知する能力は全く備わっていない。地上の生命体は放射能と共存できない」ということである。坑道のカナリアならぬ「駆除されるアイナメ」は身をこらして、そのことを私たちに教えている。

進化の頂点と自負しているホモサピエンスは、地殻に分散して眠っていたウランを掘り出して精製し、わずか60年余りの間に原子爆弾や原子炉によって大量の放射性物質をまき散らしてしまった。ホモサピエンスはこの浅知恵と欲望の不始末を地上の生物にわびなければならぬし、このような未完の技術は密封された研究室の一室にとどめるようにすべきである。

昨年3月に始まった首相官邸前の脱原発デモは全国に広がり、仙台でも3月16日で31回を数えた。政権が交代し、脱原発から原発容認へと政策転換しつつあるようだ。私はアイナメをはじめ多くの生き物と一緒に、時間と体力の続く限り「きれいな海と魚を」の声を上げていきたい。

地球に生を受けたヒトとして、全ての生命が安心できる未来のために、立場の違いを越えて多くの方々に声を上げていただきたいと願っている。

(投稿)